

秋期研究大会の改革についての概要

日本数学教育学会論究部

秋期研究大会が基礎的・科学的研究の推進を目的として設定されて年を重ねてきた。目的達成を目指し、査読システムの導入、発表形態の多様化などの様々な試みをしてきた。しかし、次のような変化や問題が近年継続的に生じていた。

- ・学会誌へ投稿される論文，論究論文の数の減少。
- ・大学研究者の発表数の減少，大学院生の発表数の増加。
- ・秋期研究大会において，研究について議論する時間が不十分。

他方で社会的変化として，

- ・教職大学院の普及により，数学教育を専門分野として研究する大学院生の傾向に変化。

さらには，

- ・日本の数学教育研究者が海外の研究誌や国際会議等を新しい実質的な研究活動の場とし，その傾向が定着しつつあるように，日本の数学教育研究の国際化の新しい段階への移行。

一方，日本数学教育学会には組織運営と研究活動に関して，いわゆる専門的な研究者と教育の実践者が密接にかかわりながら共同してつくりあげてきたという成立経緯があり，会員の構成もそれを反映している。このような特徴を有する学会は，国際的にみても希有であり，教育研究を進めていくうえで貴重かつ不可欠な集団である。

様々な課題と日本数学教育学会の特徴を考慮して，秋期研究大会が本来の目的である基礎的・科学的研究の推進に寄与するための枠組の検討を行う必要があると考えた。以下はそのような問題意識をもとに，数学教育研究の活性化を目指した秋期研究大会の改革へ向けたWGで令和7年に8ヶ月にわたる議論を集約し，論究部で決定した改革案に基づく論文投稿，審査，発表等に関する概要である。

0 基本的な考え方

秋期研究大会は，発表原稿をもとに，十分な時間をとって研究内容について議論をする場とする。従来の「論文発表」ではなく，学会発表とし，発表原稿の研究業績としての扱いも，論文ではなく，学会発表とする。加えて，その後の学会誌投稿を支援するために，希望者に対して，論文作成に向けてのコメントを提供する。

1 発表のカテゴリー：口頭発表，ポスター発表

口頭発表：論文形式の原稿を基にした，算数・数学教育についての基礎的・科学的な研究発表で，8ページの原稿と，4ページの原稿の2タイプがある。

ポスター発表：ポスターを用いた算数・数学教育についての研究発表。

2 審査とコメント

「発表の可否を判断する審査」と「論文作成に向けてのコメント」を実施する。

3 投稿原稿についての「発表の可否を判断する審査」と「論文作成に向けてのコメント」に関する基本的立場と方法

(1) 「口頭発表 8 ページ」投稿原稿について

① 全ての投稿原稿について「発表の可否を判断する審査」を実施する。

以下の 3 観点についての可否を二人で審査し、発表の可否をプログラム委員会で確認する。

1: 投稿規程を満たし、執筆要領に概ね従っているか。

2: 算数・数学教育についての基礎的・科学的な研究発表で、研究の目的と結論が示されているか。

3: 研究倫理面（研究倫理に関わる諸点、並びに研究公正に関わる諸点）が配慮されているか。

② 観点 3『研究倫理面：研究公正に関わる諸点』のうち「二重投稿」に関する事柄について投稿原稿は未発表・未投稿のものとする。

ただし、過去に学会等で口頭発表したものを修正して秋期大会で再度口頭発表することは認める。（学術論文として既に公刊されている論文や投稿中の論文の修正投稿は認めない。）

投稿原稿が既発表のものを修正したものである場合は、既発表であること、並びにその修正の内容を付記として記すことを求める。

秋期大会で口頭発表したものを他学会で再度発表することについては、日本数学教育学会としては妨げない。発表に際して、日本数学教育学会秋期研究大会で既発表であることを記すことを求める。

③ 1 人でも「否」のついたものについては、プログラム委員会で確認し、判断する。プログラム委員会の判断で「口頭発表 4 ページに変更」「ポスター発表に変更」「否」となる場合がある。

④ 投稿者のうち希望者に、以下の観点から、「論文作成に向けてのコメント」をする。

ア. 研究の目的やリサーチクエスチョン(研究課題)、研究の独自性と意義

イ. 研究の方法

ウ. 研究上の重要な概念・用語や研究の枠組み

エ. 研究の結果とその考察、研究成果の意義

オ. その他、原稿の構成、内容、論旨等

⑤ 投稿者が「論文作成に向けてのコメント」を希望しない場合は、その後の学会誌への推薦（下記 5 参照）は行われぬ。

(2) 「口頭発表 4 ページ」「ポスター発表」投稿原稿について

全ての投稿原稿について「発表の可否を判断する審査」の上記の 3 観点から審査を実施し、発表の可否をプログラム委員会で確認する。

審査・コメントと発表カテゴリとの関係

	発表の可否を判断する審査	論文作成に向けてのコメント
口頭発表 8 ページ	○	○(希望者)
口頭発表 4 ページ	○	なし
ポスター発表	○	なし

4 審査員について

「発表の可否を判断する審査」と「論文作成に向けてのコメント」は、基本的には論究部幹事2名が担当するが、算数・数学教育編集部幹事，高専・大学数学教育編集部幹事が審査する方が適切な場合は，論究部幹事から1名，編集部幹事から1名の計2名が原稿の審査を担当する。

5 学会誌への掲載の推薦

「論文作成に向けてのコメント」を担当した審査員が，その原稿を優秀であると判断した場合は，学会誌（論究，算数・数学教育，高専・大学数学教育）への掲載を推薦することができる。その後については，審査員からの推薦をもとに，プログラム委員会，ならびに論究部(長)，算数・数学教育編集部(長)，高専・大学数学教育編集部(長)が判断する。(従来の論文発表論文から再審査，論究誌へ掲載の代わりとなる)

6 大学院生の研究奨励賞

従来の「学会賞(大学院研究奨励部門)顕彰細則」の考えを尊重し，新しい形に整合するように細則の第2条の選定対象を変更する。(論究部部会において議論し，理事会において細則の改正をする)